稲作だより

第９号
令和３年７月２１日発行
山形おいしさ極める！
米づくり日本一プロジェクト
西村山農業技術普及課
TEL：0237-86-8215

生育は旺盛で、高温により出穂は早まる見込みです。
気温の変動に気を付けて適切な水管理を行いましょう！！

【管内の生育状況（7/２０　普及課調べ）】

生育調査圃	年　次	草丈（cm）	茎数（本/㎡）	葉数（枚）	葉色（SPAD値）	出穂日（月/日）
はえぬき（寒河江市高屋）	本　年	73.5	670	11.7	38	8/2
	平　年	68.0	615	11.5	37	8/2
	平年比	長い	多い	並み	並み	並み
つや姫（寒河江市高屋）	本　年	74.2	541	11.4	35	8/7
	平　年	68.6	533	11.4	37	8/8
	平年比	長い	多い	並み	淡い	早い
雪若丸（寒河江市高屋）	本　年	61.4	631	11.7	37	8/5
	指　標	60.8	616	11.8	38	8/5
	指標比	並み	多い	並み	並み	並み

・高温の影響により出穂は早まる見込みです。水管理や防除等遅れずに対応しましょう！！

【中干し後の水管理】

・中干し終了後は、走り水行い、**飽水管理**(足跡に水がにじみ出る程度)した後、徐々に**間断かん水（２日湛水、２日落水）**に切り替え、根の活力維持に努めましょう。

・幼穂形成期（出穂 25 日前頃）～穂揃期の期間は、イネが**水分や酸素**を多く必要とします。

→　出穂期まで間断かん水（２日湛水、２日落水）を継続しましょう!!

【出穂期前後の水管理】

・穂孕期（出穂 14～7 日前）の低温は不稔の原因になります。低温（最低気温 17℃以下）の場合は、できるだけ深水にして、幼穂を保護しましょう。

・出穂期前後は、イネが最も水分を必要とする時期です。水尻や畦畔を再度確認し、 しっかりと湛水状態を保ちましょう。

・出穂後の登熟期は、間断かん水をして、根の活力を維持しましょう。極端な低温時や、フェーン現象等により高温が続く場合は、湛水してイネを保護しましょう。

・しっかりと最後まで登熟させるため、早期落水はせず、**出穂から３０日間**は水を切らさないようにしましょう。

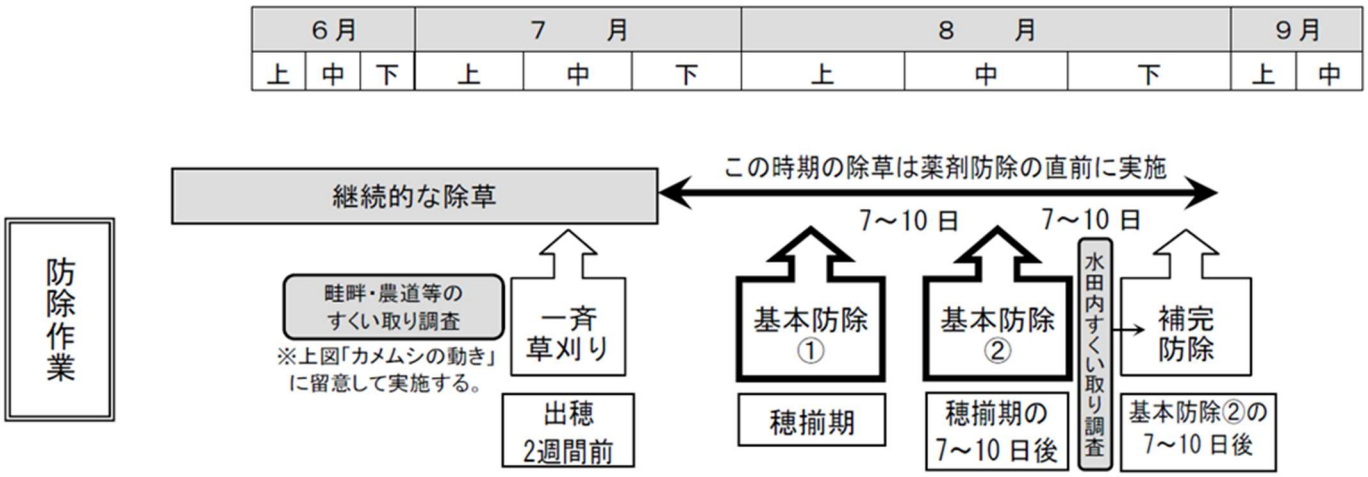
【斑点米カメムシ類対策】

・斑点米カメムシ注意報第２号が７月２１日に県病害虫防除所から発表されました。

・カメムシが広範囲で確認され、発生量も多くなっています。

→　気温に注意しながら草刈りを行ってない方は急ぎ行いましょう!!

・８月中の草刈は行わず、今後は防除を徹底し、カメムシの被害を抑えましょう。



※カメムシ防除は地域一体となって、一斉に防除を行うことが重要です。
地域ぐるみでカメムシの被害防止を図りましょう!!

【いもち病対策】

・育苗箱施用薬剤の持続効果は７月上旬から中旬ごろ。
　７月中旬以降はいもち病の発生リスクが高まります。
　→　散布予定の方は急ぎ予防剤を散布しましょう!!

・圃場の見回りを行い、いもち病の発生が確認されたら、拡大を防ぐため、治療効果のある薬剤で適正な時期に防除を行いましょう!!

※**上位葉**（止葉を含め上から３葉）の病斑は穂いもちの発生に直結し、品質・収量の低下につながります。
　→　早期発見と適切な防除を徹底しましょう!!

農作業事故、熱中症に要注意!!　農薬適正使用の徹底!!